

部分保存的な文に関する Guaspari の問題について

発表者: 大川裕矢 (千葉大学融合理工学府)
倉橋太志講師 (木更津工業高等専門学校) との共同研究

数学基礎論若手の会 2019 年 12/6

- 1 Guaspari の問題
- 2 先行研究
- 3 得られた結果

1 Guaspari の問題

2 先行研究

3 得られた結果

Γ -保存性

T, T_i, U : 算術 (PA) を含む無矛盾な r.e. 理論.

$\Gamma \in \{\Sigma_n, \Pi_n : n \geq 1\}$.

$$\Gamma^d := \begin{cases} \Pi_n & (\Gamma = \Sigma_n) \\ \Sigma_n & (\Gamma = \Pi_n) \end{cases}$$

定義

文 φ が T 上 Γ -保存的である.

$:\Leftrightarrow$ 任意の Γ 文 ψ について $T + \varphi \vdash \psi$ ならば $T \vdash \psi$.

Γ -保存性

T, T_i, U : 算術 (PA) を含む無矛盾な r.e. 理論.

$\Gamma \in \{\Sigma_n, \Pi_n : n \geq 1\}$.

$$\Gamma^d := \begin{cases} \Pi_n & (\Gamma = \Sigma_n) \\ \Sigma_n & (\Gamma = \Pi_n) \end{cases}$$

定義

文 φ が T 上 Γ -保存的である.

$:\Leftrightarrow$ 任意の Γ 文 ψ について $T + \varphi \vdash \psi$ ならば $T \vdash \psi$.

定理 (Kreisel: 1962)

$\neg\text{Con}_T$ は T 上 Π_1 -保存的である.

Γ -保存性

T, T_i, U : 算術 (PA) を含む無矛盾な r.e. 理論.

$\Gamma \in \{\Sigma_n, \Pi_n : n \geq 1\}$.

$$\Gamma^d := \begin{cases} \Pi_n & (\Gamma = \Sigma_n) \\ \Sigma_n & (\Gamma = \Pi_n) \end{cases}$$

定義

文 φ が T 上 Γ -保存的である.

$:\Leftrightarrow$ 任意の Γ 文 ψ について $T + \varphi \vdash \psi$ ならば $T \vdash \psi$.

定理 (Kreisel: 1962)

$\neg\text{Con}_T$ は T 上 Π_1 -保存的である.

任意の Π_1 文 π について, $T + \neg\text{Con}_T \vdash \pi$ ならば $T \vdash \pi$.

Γ -保存性

T, T_i, U : 算術 (PA) を含む無矛盾な r.e. 理論.

$\Gamma \in \{\Sigma_n, \Pi_n : n \geq 1\}$.

$$\Gamma^d := \begin{cases} \Pi_n & (\Gamma = \Sigma_n) \\ \Sigma_n & (\Gamma = \Pi_n) \end{cases}$$

定義

文 φ が T 上 Γ -保存的である.

$:\Leftrightarrow$ 任意の Γ 文 ψ について $T + \varphi \vdash \psi$ ならば $T \vdash \psi$.

定理 (Kreisel: 1962)

$\neg\text{Con}_T$ は T 上 Π_1 -保存的である.

任意の Π_1 文 π について, $T + \neg\text{Con}_T \vdash \pi$ ならば $T \vdash \pi$.

π として \perp を考えると, 第二不完全性定理となる.

Guaspari の定理

定義

- $\text{Cons}(\Gamma, T) := \{\varphi \in \Gamma^d : \varphi \text{ が } T \text{ 上 } \Gamma\text{-保存的}\}.$
- $\text{Th}(T) := \{\varphi : \varphi \text{ は文で } T \vdash \varphi\}.$

Guaspari の定理

定義

- $\text{Cons}(\Gamma, T) := \{\varphi \in \Gamma^d : \varphi \text{ が } T \text{ 上 } \Gamma\text{-保存的}\}.$
- $\text{Th}(T) := \{\varphi : \varphi \text{ は文で } T \vdash \varphi\}.$

$\varphi \in \Gamma^d$ が $T \vdash \varphi$ なら明らかに $\varphi \in \text{Cons}(\Gamma, T)$.

Guaspari の定理

定義

- $\text{Cons}(\Gamma, T) := \{\varphi \in \Gamma^d : \varphi \text{ が } T \text{ 上 } \Gamma\text{-保存的}\}.$
- $\text{Th}(T) := \{\varphi : \varphi \text{ は文で } T \vdash \varphi\}.$

$\varphi \in \Gamma^d$ が $T \vdash \varphi$ なら明らかに $\varphi \in \text{Cons}(\Gamma, T)$.

定理 (Guaspari: 1979)

$\text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(T) \neq \emptyset.$

Guaspari の定理

ところで、以下が成立する.

$$\varphi \in \text{Cons}(\Gamma, T) \Rightarrow T \not\vdash \neg\varphi.$$

Guaspari の定理

ところで、以下が成立する。

$$\varphi \in \text{Cons}(\Gamma, T) \Rightarrow T \not\vdash \neg\varphi.$$

Proof.

$$T \vdash \neg\varphi \Rightarrow T + \varphi \vdash \perp \Rightarrow T \vdash \perp. \quad \square$$

Guaspari の定理

ところで、以下が成立する。

$$\varphi \in \text{Cons}(\Gamma, T) \Rightarrow T \not\vdash \neg\varphi.$$

Proof.

$$T \vdash \neg\varphi \Rightarrow T + \varphi \vdash \perp \Rightarrow T \vdash \perp. \quad \square$$

つまり、 $\text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(T) \neq \emptyset$ から、
次の **Gödel-Rosser** の第一不完全性定理が導かれる。

定理 (Gödel-Rosser: 1936)

次の文 φ が存在する:

$$T \not\vdash \varphi \text{ かつ } T \not\vdash \neg\varphi$$

Guaspari の問

理論の列 $\{T_i\}_{i \in \omega}$ が r.e. である $\Leftrightarrow \{\langle i, \varphi \rangle \mid T_i \vdash \varphi\}$ が r.e. 集合.

Guaspari の問

理論の列 $\{T_i\}_{i \in \omega}$ が r.e. である $\Leftrightarrow \{\langle i, \varphi \rangle \mid T_i \vdash \varphi\}$ が r.e. 集合.
Mostowski は Gödel-Rosser の定理を次のように一般化している.

Mostowski (1961)

理論の r.e. 列 $\{T_i\}_{i \in \omega}$ について, 次の Π_1 文 φ が存在する:
各 $i \in \omega$ について, $T_i \not\vdash \varphi$ かつ $T_i \not\vdash \neg\varphi$.

Guaspari の問

理論の列 $\{T_i\}_{i \in \omega}$ が r.e. である $:\Leftrightarrow \{\langle i, \varphi \rangle \mid T_i \vdash \varphi\}$ が r.e. 集合.
Mostowski は Gödel-Rosser の定理を次のように一般化している.

Mostowski (1961)

理論の r.e. 列 $\{T_i\}_{i \in \omega}$ について, 次の Π_1 文 φ が存在する:
各 $i \in \omega$ について, $T_i \not\vdash \varphi$ かつ $T_i \not\vdash \neg\varphi$.

Mostowski の定理に対応して, 次の問が考えられる.

問題 (Guaspari: 1979)

任意の理論の r.e. 列 $\{T_i\}_{i \in \omega}$ に対して,
 $\bigcap_{i \in \omega} (\text{Cons}(\Gamma, T_i) \setminus \text{Th}(T_i)) \neq \emptyset?$

Guaspari の問

理論の列 $\{T_i\}_{i \in \omega}$ が r.e. である $\Leftrightarrow \{\langle i, \varphi \rangle \mid T_i \vdash \varphi\}$ が r.e. 集合.
Mostowski は Gödel-Rosser の定理を次のように一般化している.

Mostowski (1961)

理論の r.e. 列 $\{T_i\}_{i \in \omega}$ について, 次の Π_1 文 φ が存在する:
各 $i \in \omega$ について, $T_i \not\vdash \varphi$ かつ $T_i \not\vdash \neg\varphi$.

Mostowski の定理に対応して, 次の問が考えられる.

問題 (Guaspari: 1979)

任意の理論の r.e. 列 $\{T_i\}_{i \in \omega}$ に対して,
 $\bigcap_{i \in \omega} (\text{Cons}(\Gamma, T_i) \setminus \text{Th}(T_i)) \neq \emptyset?$

つまり, 「非自明に複数の理論で同時に Γ -保存的となる Γ^d 文は存在するか?」ということ.

- 1 Guaspari の問題
- 2 先行研究
- 3 得られた結果

Guaspari の問題は一般には成立しない.

Guaspari の問題は一般には成立しない.

Misercque 及び Bennet により,
Guaspari の問いに対する **部分的な** 反例が見ついている.

Misercque の分析

定理 (Misercque: 1983)

理論の r.e. 列 $\{T_i\}_{i \in \omega}$ が存在し、任意の Γ について、
 $\bigcap_{i \in \omega} (\text{Cons}(\Gamma, T_i) \setminus \text{Th}(T_i)) = \emptyset$ となる。

Misercque の分析

定理 (Misercque: 1983)

理論の r.e. 列 $\{T_i\}_{i \in \omega}$ が存在し、任意の Γ について、
 $\bigcap_{i \in \omega} (\text{Cons}(\Gamma, T_i) \setminus \text{Th}(T_i)) = \emptyset$ となる。

ただし、この例は有限個の理論に対する Guaspari の問題の反例
になっているわけではない。

Bennet の分析 1

Bennet は 2 つの理論に対する Guaspari の問題について分析を行った.

Bennet の分析 1

Bennet は 2 つの理論に対する Guaspari の問題について分析を行った。

定理 (Bennet: 1986)

理論 T_0, T_1 について, 以下は同値.

- $\bigcap_{i \leq 1} (\text{Cons}(\Gamma, T_i) \setminus \text{Th}(T_i)) \neq \emptyset$
- $\text{Cons}(\Gamma, T_0) \setminus \text{Th}(T_1) \neq \emptyset$ かつ $\text{Cons}(\Gamma, T_1) \setminus \text{Th}(T_0) \neq \emptyset$.

Bennet の分析 1

Bennet は 2 つの理論に対する Guaspari の問題について分析を行った。

定理 (Bennet: 1986)

理論 T_0, T_1 について、以下は同値。

- $\bigcap_{i \leq 1} (\text{Cons}(\Gamma, T_i) \setminus \text{Th}(T_i)) \neq \emptyset$
- $\text{Cons}(\Gamma, T_0) \setminus \text{Th}(T_1) \neq \emptyset$ かつ $\text{Cons}(\Gamma, T_1) \setminus \text{Th}(T_0) \neq \emptyset$.

つまり、2 つの理論に対する Guaspari の問は、

$\text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ という条件を考えることに帰着される。

Bennet の分析 1

Bennet は 2 つの理論に対する Guaspari の問題について分析を行った。

定理 (Bennet: 1986)

理論 T_0, T_1 について, 以下は同値.

- $\bigcap_{i \leq 1} (\text{Cons}(\Gamma, T_i) \setminus \text{Th}(T_i)) \neq \emptyset$
- $\text{Cons}(\Gamma, T_0) \setminus \text{Th}(T_1) \neq \emptyset$ かつ $\text{Cons}(\Gamma, T_1) \setminus \text{Th}(T_0) \neq \emptyset$.

つまり, 2 つの理論に対する Guaspari の問は,

$\text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ という条件を考えることに帰着される.

- 任意の T, U で $\text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ なら, Guaspari の問は成立.
- ある T, U で $\text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(U) = \emptyset$ が見つければ, Guaspari の問は不成立.

Bennet の分析 2

$\text{Th}_\Gamma(T) := \text{Th}(T) \cap \Gamma$ とする.

条件「 $\text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ 」は次のような十分条件を持つ.

Bennet の分析 2

$\text{Th}_\Gamma(T) := \text{Th}(T) \cap \Gamma$ とする.

条件「 $\text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ 」は次のような十分条件を持つ.

定理 (Bennet: 1986)

$\text{Th}_{\Gamma^d}(T) \not\subseteq \text{Th}(U)$ または $\text{Th}_\Gamma(T) + U$ は無矛盾.

$\Rightarrow \text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$.

Bennet の分析 2

$\text{Th}_\Gamma(T) := \text{Th}(T) \cap \Gamma$ とする.

条件「 $\text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ 」は次のような十分条件を持つ.

定理 (Bennet: 1986)

$\text{Th}_{\Gamma^d}(T) \not\subseteq \text{Th}(U)$ または $\text{Th}_\Gamma(T) + U$ は無矛盾.

$\Rightarrow \text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$.

Γ が Σ_n なら, これらは同値.

Bennet の分析 2

$\text{Th}_\Gamma(T) := \text{Th}(T) \cap \Gamma$ とする.

条件「 $\text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ 」は次のような十分条件を持つ.

定理 (Bennet: 1986)

$\text{Th}_{\Gamma_d}(T) \not\subseteq \text{Th}(U)$ または $\text{Th}_\Gamma(T) + U$ は無矛盾.

$\Rightarrow \text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$.

Γ が Σ_n なら, これらは同値.

定理 (Bennet: 1986)

$\text{Th}_{\Pi_n}(T) \not\subseteq \text{Th}(U)$ または $\text{Th}_{\Sigma_n}(T) + U$ は無矛盾.

$\Leftrightarrow \text{Cons}(\Sigma_n, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$.

Guaspari の問の反例 (Σ_n の場合)

補題

次を満たす理論 T, U が存在する.

- $\text{Th}_{\Pi_n}(T) \subseteq \text{Th}(U)$
- $\text{Th}_{\Sigma_n}(T) + U$ は矛盾する.

Guaspari の問の反例 (Σ_n の場合)

補題

次を満たす理論 T, U が存在する.

- $\text{Th}_{\Pi_n}(T) \subseteq \text{Th}(U)$
- $\text{Th}_{\Sigma_n}(T) + U$ は矛盾する.

Proof.

$\varphi \in \text{Cons}(\Pi_n, \text{PA}) \setminus \text{Th}(\text{PA})$ 固定する.

Guaspari の問の反例 (Σ_n の場合)

補題

次を満たす理論 T, U が存在する.

- $\text{Th}_{\Pi_n}(T) \subseteq \text{Th}(U)$
- $\text{Th}_{\Sigma_n}(T) + U$ は矛盾する.

Proof.

$\varphi \in \text{Cons}(\Pi_n, \text{PA}) \setminus \text{Th}(\text{PA})$ 固定する.

- $T := \text{PA} + \varphi$
- $U := \text{PA} + \neg\varphi$

とすればよい. □

Guaspari の問の反例 (Σ_n の場合)

補題

次を満たす理論 T, U が存在する.

- $\text{Th}_{\Pi_n}(T) \subseteq \text{Th}(U)$
- $\text{Th}_{\Sigma_n}(T) + U$ は矛盾する.

Proof.

$\varphi \in \text{Cons}(\Pi_n, \text{PA}) \setminus \text{Th}(\text{PA})$ 固定する.

- $T := \text{PA} + \varphi$
- $U := \text{PA} + \neg\varphi$

とすればよい. □

残る Guaspari の問題は有限列に対する $\Gamma = \Pi_n$ の状況のみ.

Bennet の問

問題 (Bennet: 1986)

次を満たす T, U は存在するか?

$$\text{Cons}(\Pi_n, T) \setminus \text{Th}(U) = \emptyset$$

- 1 Guaspari の問題
- 2 先行研究
- 3 得られた結果

今回、Guaspari の問いに関連する次の 2 つの結果が得られた。

- Bennet の結果を 2 つ以上の理論に一般化.
- 有限列に対する $\Gamma = \Pi_n$ の場合の Guaspari の問の解決.

得られた結果 (一般化)

Bennet の 2 つの理論に対する分析を, 2 つ以上の理論に拡張する.

定理

任意の自然数 $k \geq 1$ と T_0, \dots, T_k について, 以下は同値.

- (i) $\bigcap_{i \leq k} (\text{Cons}(\Gamma, T_i) \setminus \text{Th}(T_i)) \neq \emptyset$.
- (ii) 任意の $i \leq k$ について, $\left(\bigcap_{\substack{j \neq i \\ j \leq k}} \text{Cons}(\Gamma, T_j) \right) \setminus \text{Th}(T_i) \neq \emptyset$.

得られた結果 (一般化)

Bennet の 2 つの理論に対する分析を, 2 つ以上の理論に拡張する.

定理

任意の自然数 $k \geq 1$ と T_0, \dots, T_k について, 以下は同値.

- (i) $\bigcap_{i \leq k} (\text{Cons}(\Gamma, T_i) \setminus \text{Th}(T_i)) \neq \emptyset$.
- (ii) 任意の $i \leq k$ について, $\left(\bigcap_{\substack{j \neq i \\ j \leq k}} \text{Cons}(\Gamma, T_j) \right) \setminus \text{Th}(T_i) \neq \emptyset$.

よって, 複数の理論に対して同時に Γ -保存的となる文の存在は,
 $\left(\bigcap_{i \leq k} \text{Cons}(\Gamma, T_i) \right) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ を考えることに帰着される.

得られた結果 (一般化)

Bennet の 2 つの理論に対する分析を, 2 つ以上の理論に拡張する.

定理

任意の自然数 $k \geq 1$ と T_0, \dots, T_k について, 以下は同値.

- (i) $\bigcap_{i \leq k} (\text{Cons}(\Gamma, T_i) \setminus \text{Th}(T_i)) \neq \emptyset$.
- (ii) 任意の $i \leq k$ について, $\left(\bigcap_{\substack{j \neq i \\ j \leq k}} \text{Cons}(\Gamma, T_j) \right) \setminus \text{Th}(T_i) \neq \emptyset$.

よって, 複数の理論に対して同時に Γ -保存的となる文の存在は,
 $\left(\bigcap_{i \leq k} \text{Cons}(\Gamma, T_i) \right) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ を考えることに帰着される.

$\left(\bigcap_{i \leq k} \text{Cons}(\Gamma, T_i) \right) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ の十分条件は... ?

得られた結果 (一般化)

(再掲) 定理 (Bennet: 1986)

$\text{Th}_{\Gamma^d}(T) \not\subseteq \text{Th}(U)$ または $\text{Th}_{\Gamma}(T) + U$ は無矛盾.
 $\Rightarrow \text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset.$

得られた結果 (一般化)

(再掲) 定理 (Bennet: 1986)

$\text{Th}_{\Gamma^d}(T) \not\subseteq \text{Th}(U)$ または $\text{Th}_{\Gamma}(T) + U$ は無矛盾.
 $\Rightarrow \text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset.$

$\bigcap_{i \leq k} \text{Th}_{\Gamma^d}(T_i) \not\subseteq \text{Th}(U)$ または $\bigcup_{i \leq k} \text{Th}_{\Gamma}(T_i) + U$ は無矛盾,
が十分条件として予想できる.

得られた結果 (一般化)

(再掲) 定理 (Bennet: 1986)

$\text{Th}_{\Gamma^d}(T) \not\subseteq \text{Th}(U)$ または $\text{Th}_{\Gamma}(T) + U$ は無矛盾.
 $\Rightarrow \text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset.$

$\bigcap_{i \leq k} \text{Th}_{\Gamma^d}(T_i) \not\subseteq \text{Th}(U)$ または $\bigcup_{i \leq k} \text{Th}_{\Gamma}(T_i) + U$ は無矛盾,
が十分条件として予想できる. が, それでは一般に逆を示せない.

得られた結果 (一般化)

(再掲) 定理 (Bennet: 1986)

$\text{Th}_{\Gamma^d}(T) \not\subseteq \text{Th}(U)$ または $\text{Th}_{\Gamma}(T) + U$ は無矛盾.
 $\Rightarrow \text{Cons}(\Gamma, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$.

$\bigcap_{i \leq k} \text{Th}_{\Gamma^d}(T_i) \not\subseteq \text{Th}(U)$ または $\bigcup_{i \leq k} \text{Th}_{\Gamma}(T_i) + U$ は無矛盾,
が十分条件として予想できる. が, それでは一般に逆を示せない.

定理

$\{T_i\}_{i \in \omega}$: 理論の r.e. 列とする.

$$\bigcap_{i \in \omega \setminus X} \text{Th}_{\Gamma^d}(T_i) \not\subseteq \text{Th}\left(\bigcup_{i \in X} \text{Th}_{\Gamma}(T_i) + U\right)$$

となる r.e. 集合 $X \subseteq \omega$ が存在する.
 $\Rightarrow \left(\bigcap_{i \in \omega} \text{Cons}(\Gamma, T_i)\right) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$.

得られた結果 (一般化)

$I_k := \{0, \dots, k\}$ とする.

$\Gamma = \Sigma_n$ の場合, 有限列に対しては同値になる.

得られた結果 (一般化)

$I_k := \{0, \dots, k\}$ とする.

$\Gamma = \Sigma_n$ の場合, 有限列に対しては同値になる.

定理

T_0, \dots, T_k, U : 理論とする.

$$\bigcap_{i \in I_k \setminus X} \text{Th}_{\Pi_n}(T_i) \not\equiv \text{Th}\left(\bigcup_{i \in X} \text{Th}_{\Sigma_n}(T_i) + U\right)$$

なる集合 $X \subseteq I_k$ が存在する.

$$\Leftrightarrow \left(\bigcap_{i \in I_k} \text{Cons}(\Sigma_n, T_i)\right) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset.$$

問

無限列に対する結果が一部得られていることから、
次の問が考えられる。

問

無限列に対する結果が一部得られていることから、
次の問が考えられる。

問題

理論の r.e. 列 $\{T_i\}_{i \in \omega}$ について、以下は同値か？

- $\bigcap_{i \in \omega} (\text{Cons}(\Gamma, T_i) \setminus \text{Th}(T_i)) \neq \emptyset$.
- 任意の $i \in \omega$ について、 $\left(\bigcap_{j \in \omega, j \neq i} \text{Cons}(\Gamma, T_j) \right) \setminus \text{Th}(T_i) \neq \emptyset$.

問

次の条件を考える.

問

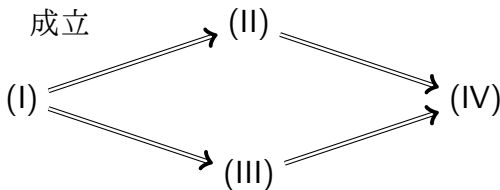
次の条件を考える.

- (I) 次の r.e. 集合 $X \subseteq \omega$ が存在する:
 $\bigcap_{i \in \omega \setminus X} \text{Th}_{\Gamma^d}(T_i) \not\subseteq \text{Th}(\bigcup_{i \in X} \text{Th}_{\Gamma}(T_i) + U)$
- (II) 次の集合 $X \subseteq \omega$ が存在する:
 $\bigcap_{i \in \omega \setminus X} \text{Th}_{\Gamma^d}(T_i) \not\subseteq \text{Th}(\bigcup_{i \in X} \text{Th}_{\Gamma}(T_i) + U)$
- (III) $(\bigcap_{i \in \omega} \text{Cons}(\Gamma, T_i)) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$
- (IV) 任意の $k \in \omega$ について, $(\bigcap_{i \leq k} \text{Cons}(\Gamma, T_i)) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$

問

次の条件を考える.

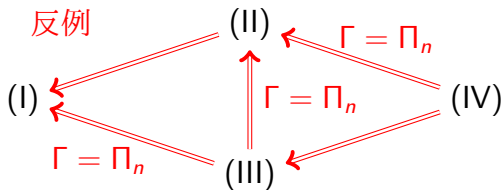
- (I) 次の r.e. 集合 $X \subseteq \omega$ が存在する:
 $\bigcap_{i \in \omega \setminus X} \text{Th}_{\Gamma^d}(T_i) \not\subseteq \text{Th}(\bigcup_{i \in X} \text{Th}_{\Gamma}(T_i) + U)$
- (II) 次の集合 $X \subseteq \omega$ が存在する:
 $\bigcap_{i \in \omega \setminus X} \text{Th}_{\Gamma^d}(T_i) \not\subseteq \text{Th}(\bigcup_{i \in X} \text{Th}_{\Gamma}(T_i) + U)$
- (III) $(\bigcap_{i \in \omega} \text{Cons}(\Gamma, T_i)) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$
- (IV) 任意の $k \in \omega$ について, $(\bigcap_{i \leq k} \text{Cons}(\Gamma, T_i)) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$



問

次の条件を考える.

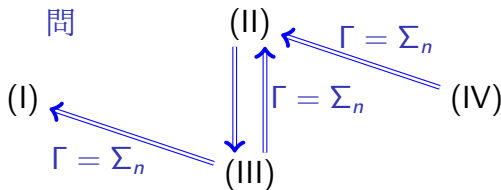
- (I) 次の r.e. 集合 $X \subseteq \omega$ が存在する:
 $\bigcap_{i \in \omega \setminus X} \text{Th}_{\Gamma^d}(T_i) \not\subseteq \text{Th}(\bigcup_{i \in X} \text{Th}_{\Gamma}(T_i) + U)$
- (II) 次の集合 $X \subseteq \omega$ が存在する:
 $\bigcap_{i \in \omega \setminus X} \text{Th}_{\Gamma^d}(T_i) \not\subseteq \text{Th}(\bigcup_{i \in X} \text{Th}_{\Gamma}(T_i) + U)$
- (III) $(\bigcap_{i \in \omega} \text{Cons}(\Gamma, T_i)) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$
- (IV) 任意の $k \in \omega$ について, $(\bigcap_{i \leq k} \text{Cons}(\Gamma, T_i)) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$



問

次の条件を考える.

- (I) 次の r.e. 集合 $X \subseteq \omega$ が存在する:
 $\bigcap_{i \in \omega \setminus X} \text{Th}_{\Gamma^d}(T_i) \not\subseteq \text{Th}(\bigcup_{i \in X} \text{Th}_{\Gamma}(T_i) + U)$
- (II) 次の集合 $X \subseteq \omega$ が存在する:
 $\bigcap_{i \in \omega \setminus X} \text{Th}_{\Gamma^d}(T_i) \not\subseteq \text{Th}(\bigcup_{i \in X} \text{Th}_{\Gamma}(T_i) + U)$
- (III) $(\bigcap_{i \in \omega} \text{Cons}(\Gamma, T_i)) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$
- (IV) 任意の $k \in \omega$ について, $(\bigcap_{i \leq k} \text{Cons}(\Gamma, T_i)) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$



得られた結果 (Bennet の問)

Shavrukov との議論により、
有限列に対する $\Gamma = \Pi_n$ の状況では Guaspari の問は成立することが判明した。

得られた結果 (Bennet の問)

Shavrukov との議論により、
有限列に対する $\Gamma = \Pi_n$ の状況では Guaspari の問は成立することが判明した。

任意有限個の理論に対して Guaspari の問は
 $\left(\bigcap_{i \leq k} \text{Cons}(\Pi_n, T_i) \right) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ の条件に帰着できた。

得られた結果 (Bennet の問)

Shavrukov との議論により、
有限列に対する $\Gamma = \Pi_n$ の状況では Guaspari の問は成立することが判明した。

任意有限個の理論に対して Guaspari の問は
 $\left(\bigcap_{i \leq k} \text{Cons}(\Pi_n, T_i)\right) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ の条件に帰着できた。

定理

任意の理論 T_0, \dots, T_k, U に対して、
 $\left(\bigcap_{i \leq k} \text{Cons}(\Pi_n, T_i)\right) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ 。

問

$\text{Cons}(\Pi_n, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ の証明は背理法を用いる.

問

$\text{Cons}(\Pi_n, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ の証明は背理法を用いる。
つまり、構成的な証明ではない。

問題

$\text{Cons}(\Pi_n, T) \setminus \text{Th}(U) \neq \emptyset$ に構成的な証明を与えられるか？

参考文献

- [1] C. Bennet, On some orderings of extensions of arithmetic, *Thesis, Dept. of Philosophy, Univ. of Göteborg* (1986).
- [2] D. Guaspari, Partially conservative extentions of arithmetic, *Trans. Amer. Math. Soc*, vol.254, pp.47-68 (1979).
- [3] G. Kreisel. On weak completeness of intuitionistic predicate logic. *The Journal of Symbolic Logic*, 27: 139-158, (1962).
- [4] T. Kurahashi, Y. Okawa. On Guaspari's problem about partially conservative sentences. submitted.
- [5] D. Misercque, Answer to a problem by D. Guaspari, in : *Open days in Model Theory and Set Theory*(eds. W Guzicki et al), Poland, pp.181-183 (1983).